

風
／
ぼ
く
た
ち
の
い
の
ち



堀田耕介



風

すべての存在は、生命の源から湧き出たたくさんの流れの中でのちを与えられたもの。だから、あなたの胸に耳をあてると、せんせんと湧き出るいずみの音が聞こえてくる。

太陽が光り輝く砂漠の砂の上にも生きるいのちはあり、北極の凍りついた大地の下にも生きる営みがある。

ぼくたちはたまたま「ひと」という形を取って生まれてきたいのちのかけら。ぼくたちを通して生きているのは一つの大きな生命なのだ。

ぼくたちはいつもその大きな生命とともにある。その分光された灯火がぼくたちの肉体で燃え尽きるまで、ぼくたちは生きる。

ぼくたちがつくりだすすべてのものは、ぼくたち

を通して生命がつくりだしている。

（あなたの創造に、過ちはない）

歪みのない、整った美しい大きなものに、不揃いなひとりひとり違う表情を与えているのがぼくたちのこころ。みんながそれぞれ違うのは、もともとみんなが同じだから。

すべての生命の交響楽はかの初めるときより鳴

り始め、かの終わりのときまで響き続ける。ぼくたちは大きな音楽の一つのパートの、そのまた一つの楽器のか細い演奏家なのだ。

風が吹いている。遠い彼方から、ぼくたちの知らないどこかに向かつて。

遠い、はるかな昔から吹いて来る風。

遠い、はるかな未来へ、吹いて行く風。

ぼくたちのいのち

ぼくたちのいのちは、火のように燃え、めらめらと燃え上がると思えば、水のように何処までも流れて行く。

風のように自由で、光のように気まぐれで、音楽のように揺れ、星のように静かだ。

ぼくたちのいのちは、どこまでも強く、そしてど

こまでも弱い。虎のように憶病で、駒鳥のように
饒舌で、白鳥のように雄々しく、猿のように優
しい。

不確かで、確かで、蒼白で、明るく、電光のよう
に天翔け、火龍のように地を這い、傷つき、涙を
流し、笑い、小躍りし、死に絶え、生まれ、宙を
舞い、荒野を走り、都市を飛び越え、地中深く
から宇宙の果てまで、足音を響かせ、笑い声で
満たし、いのちを吐きだし、嵐を吸いこみ、たけ

るように、たぎるように、息づいている。

(失われるものは何もない)

ぼくたちの踏んだ一歩が世界の新しい姿だ。

(損なわれるものは何もない)

ぼくたちの発した言葉が、世界の新しい言葉なのだ。

風／ぼくたちのいのち

<http://p.booklog.jp/book/52823>

著者：堀田耕介

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kous37/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/52823>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/52823>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ